



J R 東 労 組 東 京 地 本 第 3 8 回 定 期 大 会 ～ 大 会 宣 言 ～

大会宣言(案)

本日、東京地本は第38回定期大会を開催した。

再建大会から一年、地本内の各機関は体制確立と機能回復に未だ至っていない。再建のたたかいは道半ばである。しかし、組合員との連絡・連携は一定程度、回復しつつある。のべ48回開催した座談会には、200名を超える組合員の参加を得ることが出来た。

私たちが再建にあたり目指したのは、18春闘の大敗北を乗り越えること、すなわち組合官僚主義を克服することにあった。再建大会で誓った「万機公論に決す」ことを、みんなで実践してきた。この新しい東京地本の姿を確認しようではないか。

2020年度期末決算は、5,779億円の赤字となった。会社は2021年度の黒字化を必達目標として、「変革のスピードアップ」に基づき、次々と施策を打ってきている。その一方で、21春闘での定昇カットや年末・夏季手当の相次ぐ減額によって、職場では「現場や社員にだけしわ寄せがきている」と不公平感が渦巻いている。厳しい状況のなか「三方一両損」になっていないのだ。上意下達の施策実施と相まって、職場の雰囲気は重苦しい。

そうしたなか、夏季手当の再申し入れに対して、未加入者を含めて多くの支持が寄せられた。職場世論に「低額」「我慢」が蔓延するなか、職場の意見を正しく代表することが労働組合の任務であることを指し示している。同時に、要求を実現させるには力が必要であることも突き付けられた。組織拡大を展望しつつ、先ずは、諦め・ニヒル化している意識を転換させることが必要だ。夏季手当のたたかいの教訓を今後の糧としていく。

その上で、改めて「是々非々」の基本姿勢を明確にしたい。是を是とし非を非とする、これを智と謂い、是を非とし非を是とする、これを愚と謂う。社会・経営環境が激変するなか、構造改革が不可避であることは是としよう。だが、安全性の低下や労働条件の切り下げは非である。不当労働行為は言うに及ばず、従属的な労使関係は断固として非である。

JR東日本の構造改革は、国鉄改革に匹敵する、否、それ以上の大変革である。昨年度、具体的な政策提言を申し入れてきたことを踏まえ、「JR東労組運動宣言」に基づく提言型の運動をさらに強化することが重要である。国鉄改革を教訓化することで、机上の空論ではない、職場に根ざした優れた提言を創造しよう。それを実現するために主体的な力量を高め、困難な現状に立ち向かっていこう。

夏季手当の再申し入れは、重苦しい職場の雰囲気に一石を投じることとなった。見よ、その波紋は、今やさざ波へと確実に広がりつつある。これを、大きなうねりへと、そして、潮流へとするために、胸を張って新しい東京地本への再結集を呼びかけよう！

以上、未来をかけて宣言する。

2021年7月10日
東日本旅客鉄道労働組合
東京地方本部
第38回定期大会